

ウガンダ □ □ × 日本 □ □ ⑥

あなたにとっての1秒は誰かにとっての1秒でもある



ウガンダとは???

国について Part 6

久しぶりのレポートとなってしまいました。大変申し訳ございません。また、現在新型コロナウイルスにより、多くの方が窮屈な思いの中、生活をされていると思います。いつもの日常が戻ってくる日を願うばかりです。

今回は、新型コロナウイルスにおけるウガンダの現状や、対策、市民の声などを書きたいと思います。皆さん既にご存知の通り、ウガンダは、アフリカ大陸にあるケニアやタンザニアのお隣にある内陸国です。アジアや、ヨーロッパの国で、流行が始まってから、しばらく経った頃にアフリカでも感染者が確認されるようになりました。専門家の方々の話によれば、医療体制が整っていない国が多い、アフリカ大陸の国で感染爆発が起きれば多くの死者が出るという話でした。現在のウガンダの感染者数は、122名で、死亡者は出ていません。世界中の状況と比べると、本当によく持ちこたえていると感じます。

ウガンダのムセベニ大統領（写真右）は、感染者が自国で確認される前に国境の



封鎖を決断しました。隣国ケニアで感染者が確認されてから、数日の時でした。結果としては、この時の決断が感染爆発を今も抑えているのかもしれませんが。ウガンダでは、定期的なガイドラインの更新がなされ、それと同時に大統領からのスピーチがラジオとテレビで配信されます。上の写真にあるように、自分の運動している姿とともに、国民へ健康維持のために、運動することを呼びかけました。また、現在ウガンダの学校では、全学校が休校措置をとっています。さらに、車やバイクの利用も許されていなく、首都の一部のみのマーケットが営業を許可されています。国からの食料支援も、首都に住む一部の住民に限られています。私が住んでいた地域の人とSNSを通じて、先日やりとりをすることができました。

『手持ちの食料は、もう少しで 尽きるし、仕事もお金もないから、とても心配』と語ってくれました。日本から、彼らに直接何かできることは、少ないかもしれませんが、私たちが感染を抑えようと努力することは、**世界中の新型コロナウイルスの収束**にもつながると思います。

協力隊の現状

以前のレポートでお伝えした『次回の内容』とは、変更させていただきます。ここでは、私たち協力隊は、今どうしているのかについて、お伝えしたいと思います。単刀直入にお伝えするのであれば、全世界の全隊員が日本へ帰国しています。約 2000 人の協力隊員が、新型コロナウイルスの影響により、帰国を余儀なくされてしまいました。今回は、**一時退避**という形での日本への帰国となっています。今後の状況次第で、再赴任できるかが決まります。日本と同レベルの医療体制が整っている国は少なく、今後の国の情勢の悪化なども予想され、苦渋の決断がなされました。現地でお世話になった方々や同僚、生徒に挨拶ができずに、帰国となった隊員もたくさんいると思います。私の場合も同様に、帰国が決まってから 2 日後には、日本への飛行機に乗ってました。いろんな思いの中、帰国した隊員達は、現在も日本で、インターネットを通じての教材の共有などのできる限りの活動を行っています。**任地に戻れることを祈るばかりです。**

最後に

任期を残した中での、帰国となり悔しい思いをしましたが、無事に帰国できたことに、感謝しています。この場を借りて、協力隊事務局の方々に深く御礼申し上げます。

また、武蔵村山市役所の方々をはじめとする、このレポートを読んでくださっている皆様にも心から感謝申し上げます。**1年9ヶ月のウガンダでの生活**では、本当にたくさんの方がいました。楽しいことも辛いこともありましたが、新卒でウガンダに行くという決断したことを後悔していません。

また、厳しい状況では、ありますが、任期の中でまたウガンダに戻れることの希望は捨ててはいません。このレポートを通して、みなさんにウガンダの現状をお伝えできる日を楽しみにしています。

前回の答え

ウガンダの国旗



ホオジロカンムリヅル（国鳥）



正解は、③番でした！！